



学校だより “行きたい学校・帰りたい家・住みたい町”

上小岩



令和6年 9月 2日

NO.5

江戸川区立上小岩小学校

校長 宮本 知司

“Learning by Doing” まずはやってみよう！

校長 宮本 知司



長い夏休みが終わり、学校に子供たちの声が戻ってきました。神社境内や江戸川河川敷でたくさんの町の方々と共に行ったラジオ体操を「夏の始まりの合図」とし、子供縁日、盆踊り、すいかわり…と、名前も内容も様々に、子供たちを楽しませてくださる自治会や町会の行事が、今年も本当に盛りだくさんでした。副校長や職員と共に参加させていただきながら、「町の皆様(もちろん保護者の方々を含め)の温かさに包まれて育つ子供たちは、幸せだなあ」と心から思う夏でした。今年も地域と PTA・保護者の皆様には、本校の子供たちの健康と安全を見守り続けてくださいましたことに、篤く感謝いたします。かみっ子も、「いつの日にか町を支える“若き力”となっていくに違いない」と信じ、今日からはまた学校でしっかりと鍛えてまいります。

やってみせ 説いて聞かせて やらせてみ ほめてやらねば人は動かぬ。

話し合い 耳を傾け承認し 任せてやらねば人は育たぬ。

やっている姿を感謝で見守って 信頼せねば人は実らぬ。 ※言い回しには諸説あります。



これは、大日本帝国の海軍大将 山本 五十六のあまりにも有名な言葉です。(この夏、新潟県の「長岡の花火」を見に行った際、その記念館も訪れてみました)日米開戦の真珠湾攻撃、ミッドウェイ海戦など多くの歴史的な作戦を指示したことで有名ですが、当時の日本の国力を冷静に分析し、終始戦争には反対をしていたという真の姿も知りました。それでも、命を張る軍人として多くの部下を統率してきた先人の言葉には大きな重みがあり、「常に相手に敬意をもつ」という、人に接する際の肝要なことを教えられます。

ところで別の観点から見ると、特に一段目の「手本を見せ、説明し(学習者が学ぶ)、実践し(学習者がやってみる)、ほめる(やったことを振り返る)」は、私たちが学習者として物事を身に付けていく段階をよく表しています。“Learning by Doing”[為すことによって学ぶ]という言葉もある通り、私たちは実際にやってみることによって多くのことを理解し、身に付けます。今年の本校は、各教科等の学習の中でも特に「特別活動」に力を入れて子供たちを育てています。決められたことには一生懸命、真面目に取り組む反面、「自分からやってみよう！」という自主性や自発性が少し弱いという子供たちの姿を少しでも変容させたいと願ったからです。

1学期には「みんなで楽しい集会をしよう」(5の2)、「4年1組のお楽しみ会をしよう」、「1年生と遊ぼう」(6の2)



を議題とした学級会の様子、また夏休みの計画を立てる3の2の子供たちの様子を全教員で参観し、子供たちの自主性を伸ばす方法を考えていきました。「楽しい時間は自分たちで考えて作っていく」「自分の生活は自分で計画を立てていく」という意識が少しずつ育ち、「学校生活をもっともっと楽しくしていこう」という風土が醸成されてきています。

この夏は、それぞれの競技に真摯に向かうオリンピック選手の頑張りから、多くの感動をいただきました。夏に得た元気や大きな力も追い風として、何事にも「まずはやってみよう！」と積極的な気持ちで向かっていくかみっ子の一人一人を応援していきたいと思えます。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

★世界的な資材や人件費の値上がりにより、本校の改築工事の入札は再度の「不調」となってしまいました。新校舎の利用開始時期は、当初の予定から半年遅れる令和9年4月となっていました。さらに後にずれ込んでしまうこととなります。「子供たちのためにいい校舎を！」の願いと共に「一日も早い工事の着工を…」と祈ります。

◀ 9月の全校道徳 ▶

『家庭生活、学校生活の充実』

みんなで協力し合って楽しい家庭、学級や学校をつくる。